



# ネットワーク

「まちかどネットワーク」は、皆さんの地域の話題を中心にお届けする「ナー」です。

皆さんの身近で起こった出来事、御意見などをお寄せください。連絡先：  
 市内永田町一〇〇 市広報広聴課  
 電話一〇三三 内線二八三三  
 締め切りは毎月十五日です。



## プラスチックを燃して大丈夫？

このコーナーは、「市長への手紙」をお寄せくださった人の中から、意見・提言などを紹介します。今回は、元市政モニターで厚原東の和田迪代さん（ちよ）からいただいた「プラスチックごみの処理」についてです。（「市長への手紙」の用紙は、各公民館などにあります）



和田迪代さん

〈市長への手紙〉  
 富士市では昨年度よりプラスチックごみを可燃物として出せるようになり、不燃ごみが少なくなったことで、ありがたいと思ってきました。

しかし、全国自治体の中でもビニール・プラスチックを可燃物として処理しているところは少ないようです。

十四億数千円を投じて建設されたということですが、幾つかの不安を感じています。

まず、プラスチック類を焼却することによって大気汚染を防ぐことができるのでしょうか。

そして、焼却後の灰の始末の仕方、焼却以前の物を埋め立てる以上に有害物質を流出させるおそれはないのでしょうか。

また、現在の施設は何年使用できる見込みでしょうか。

### 公害対策は万全です

〈市長の答え〉  
 市長への手紙ありがとうございます。ました。

プラスチック類が処理可能になった理由は、昭和六十一年に完成した新工場が、特殊な構造の焼却炉を持ち、強い熱を発生するプラスチックの燃焼が可能となったからです。また、燃やすと発生する黒い煙や有害ガスについては、電気集塵器や有害ガス除去装置で対応し、プラスチックごみ混焼前と同じ除去レベルにしています。

なお、プラスチックを混焼することにより燃焼が安定し、窒素酸化物の除去効果が上がりましたので、全体的には、大気汚染防止効果が上昇しました。また、焼却灰の有害物質については、第三者検査機関に委託して測定していますが、有害物質は検出されておられません。新炉の寿命はメーカー発表値によると十五年といわれています。寿命を短くする要因は、空き缶などのアルミニウムやガスボンベなどの危険物の混入です。第一清掃工場では、できる限り長く使用できるよう保守・管理に努めています。今後も、ごみの減量化、分別収集に御協力をお願いします。

市内で初めて「乳がん体験者のつどい」を開く

竹田喜久代さん  
 (鈴川町5)



近い将来、女性のがん死のトップになると言われる乳がん。女性の大敵ですが、人に気安く相談できることなく、運悪くかかってしまった女性の不安・動揺は、計り知れないものがあります。

「乳がん体験者のつどい」は、こうした不安に対する援助を目的にして、二月六日、保健婦人セン



ターで開かれます。

竹田さん自身、昭和五十四年に乳がんにかかり、六十二年に転移再発するというつらい体験をしました。

「乳がんになると健康な人にいくら励まされてもため。体験した人でないとわからないものがある。互いに悩みや不安を話し合うことで、どれだけ力がわいたことか…」困難を乗り越えてきただけあって、話に説得力があります。乳がんは自分で発見できる唯一のがん。「何といつても早期発見が大切。一般の人の理解も深めたい」と語りま